

**風景は地元とともに**  
**—「映え」から守り、有明浜を感じ、快適に棲まう集住体—**

風景	地元	「映え」	1230016	石川 美乃音
有明浜	Passive System	集住体	指導教員	渡辺 菊真

**0. 「映え」とは**

近年、地元民しか訪れなかった場所が SNS を通して「写真映え」として話題になり、短期間で急速に観光地化される現象が話題となっている。この写真映え重視の風潮を「映え」という。訪れた観光客は同じ場所で同じような写真を撮ることが目的であり、風景や場所そのものに対する関心は薄い。

観光地化したことによって、地元民が長年大切にしてきた風景や居場所（生活とともにある場所、子供たちの遊び場、神聖な領域等）が失われた。

**1. 背景**

**1.1 父母ヶ浜と有明浜の現状**

燧灘に面する香川県西部（三豊市、観音寺市）の海岸線は南北に弓状であり、西向きの遠浅で美しい砂浜が残っている。

父母ヶ浜は三豊市仁尾町に位置し、「日本の夕陽百選」にも選ばれた白い砂浜が約 1km にわたって続く。干潮時には、「ウユニ塩湖」のような写真が撮れると SNS で話題となり、2017 年頃から多くの人々が訪れる観光地となった。それに伴い、周辺には飲食店や土産物屋が建ち、広い駐車場が整備され、地元の風景や場所は大きく変わってしまった。先に述べた「映え」が起こす問題の一例である。

有明浜は観音寺市有明町に位置し、「日本の渚百選」「日本の白砂青松百選」にも選ばれた白い砂浜が約 2km



図1 「日本のウユニ塩湖」写真

1) 出典：三豊市観光交流局

にわたって続く。浜には海浜植物やマテ貝といった生き物が多数生息し、堤防の向こうには畑地が広がり、旧街道に沿って集落を形成している。

有明浜も父母ヶ浜同様、夕陽が燧灘に沈む絶景を見ることができ、干潮時には「ウユニ塩湖」のような写真が撮れる。父母ヶ浜との距離も近く、いつ同じように写真映えスポットとして注目されてもおかしくはない。有明浜でも今後「映え」が引き起こされる可能性がある。



図2 有明浜、畑地、旧街道集落の写真

**1.2 有明浜と私**

私は香川県三豊市の出身である。当然どちらの浜にも遊びに行っていた記憶がある。

特に有明浜へは、家族や友人達とともに毎年マテ貝堀に行っていた。さらには通っていた高校が有明浜に近く、部活終わりにもよく遊びに行った。私にとって有明浜は、たくさんの思い出がある大切な場所といえる。

**2. 目的**

本設計では、有明浜を地元民の居場所として「映え」から守ること、有明浜そのものを日々の暮らしの中で感じることを目的とする。

ここでの地元民とは、周辺集落に棲む人や私のような定期的に訪れる人、さらにはこれからこの地に棲む人のことを指す。

**3. 設計の指針**

**3.1 全体指針**

有明浜を「映え」から守り、有明浜を感じながら快適に棲む、有明浜集住体を設計する。

### 3.2 有明浜集住体の指針

以下の3点を有明浜集住体の指針として定める。

- (1) 有明浜の風景・地形・時間を感じる集住体とする
- (2) 有明浜の環境に適応し快適に暮らせる集住体とする
- (3) 新旧地元民とともに根を下ろして棲む集住体とする  
集住体に棲む対象者は上記指針に共感するとともに、有明浜を守る新たな地元民となる人を条件とする。  
以降、有明浜集住体に棲まう人を新地元民と呼ぶ。

### 3.3 有明浜への導入路周辺の整備指針

有明浜集住体の設計に伴い、有明浜への導入路周辺の整備も行う。以下の3点を整備指針として定める。

- (1) 土地の駐車場化・商業施設化の抑制
- (2) 風土に合った植栽計画
- (3) 新旧地元民の交流促進

## 4. 設計の手順

以下の手順で設計を行う。

- I 有明浜と周辺領域の調査
- II 全体計画の策定
- III 有明浜集住体の設計
  - a. 前面道路と敷地割
  - b. 風景・地形・時間を感じる空間設計
  - c. 環境への応答と Passive System の導入
  - d. 世代サイクルへの対応
- IV 有明浜への導入路周辺の整備計画
- V 計画の統合と検証

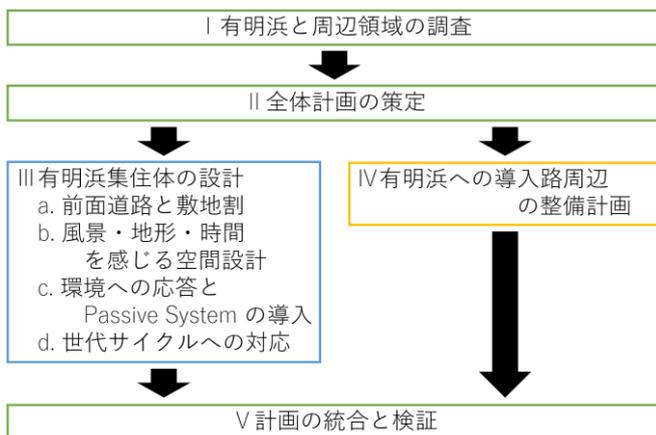


図3 設計のフローチャート

## 5. 設計の内容

### I 有明浜と周辺領域の調査

砂浜と平行に防風林（一部キャンプ場）、その東に畑地が広がる。県道が南北に通る、旧街道沿いに集落が形成されている。

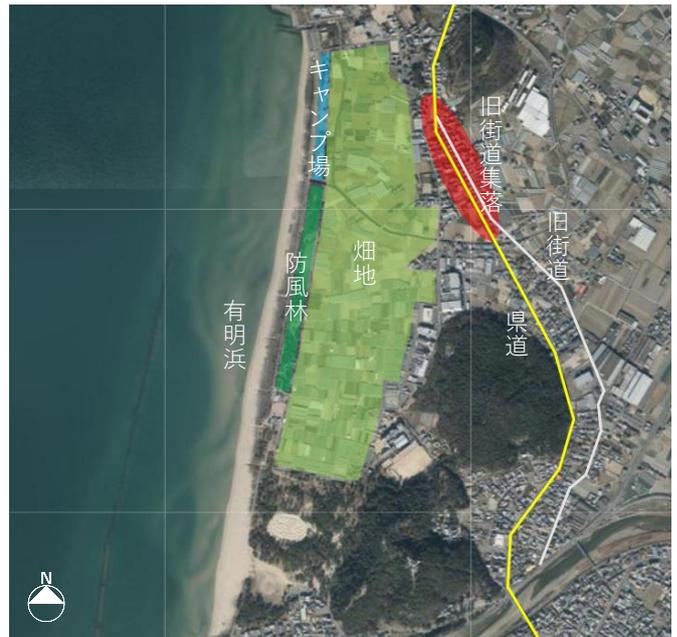


図4 有明浜周辺地図

2) 出典：地理院地図に文字、図形、方位を追記

旧街道集落は南北 450m にわたり家屋が建ち並ぶ。県道と旧街道に挟まれた敷地では、南庭+母屋、西に納屋、東に正面口といった屋敷型の配置をとる。納屋は防風の役割を担い、県道が整備されてからは1階を車庫とし、出入りできるような門型の構えとなっている。



図5 県道と旧街道の間の屋敷型

### II 全体計画の策定

調査をもとに全体計画を策定する。



図6 全体計画図

2) 出典：地理院地図に文字、図形、方位を追記

「映え」から有明浜を守るために、土地の駐車場化や商業施設化を防ぐ。有明浜だけでなく、畑地が広がる風景も大切にしたい。

よって、有明浜北部にあるキャンプ場（南北約 410m）を集住体設計敷地とする。有明浜への導入路周辺も整備する。なお近隣の町から訪れる地元民のためにキャンプ場横の駐車場は現在の規模で残す。

### Ⅲ 有明浜集住体の設計

#### a. 前面道路と敷地割

集住体設計敷地は浜側道路と農道に挟まれている。浜側道路を前面道路とし、農道は新地元民の遊歩道（農作業車は通行可）とする。前面道路は幅員 5m とし、通行量とスピードを抑制する。

敷地割は、Passive System の観点と旧街道集落の敷地割を参考に、間口 13.65m 奥行き 32~42m の全 30 戸とする。

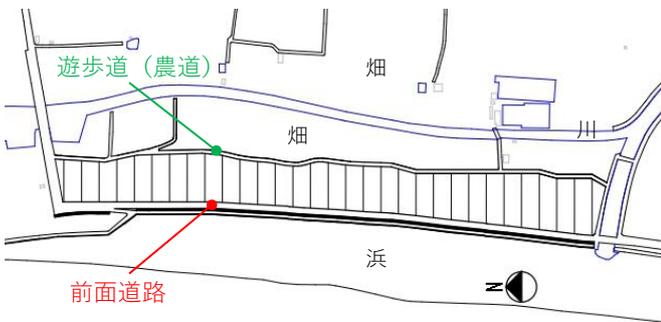


図 7 各住戸の敷地割

#### b. 風景・地形・時間を感じる空間設計

##### ①夕陽の空間

室内から季節や時間によって変わる陽と影を見る。夕陽の落ちるタイミングを計り、外に出て堤防から有明浜の夕焼けを眺める。

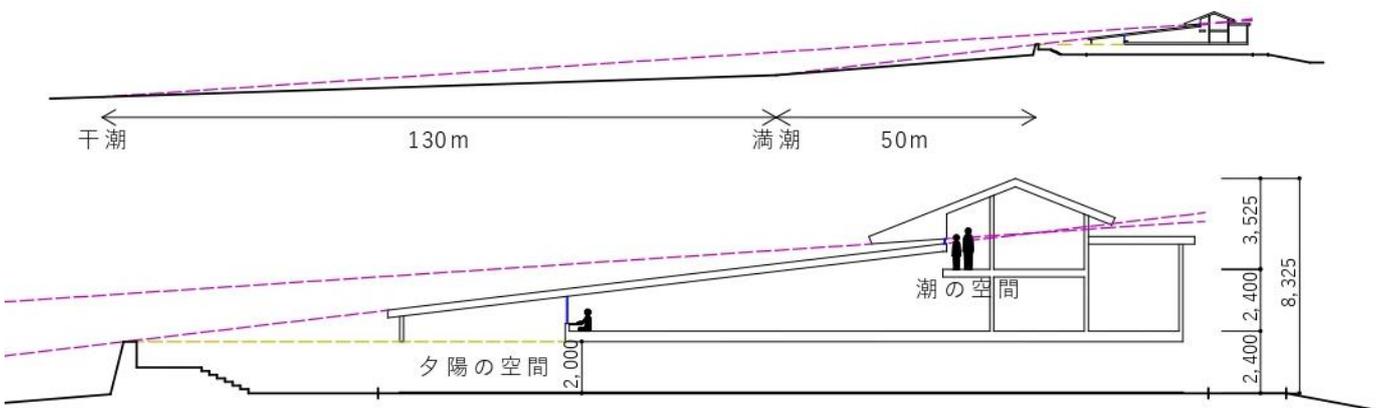


図 8 風景・地形・時間を感じる広域断面図、空間断面図

##### ②潮の空間

視線を住戸全体でコントロールし、遠浅の海岸と月の動きを感じる。

##### ③畑

家庭菜園を行えるよう各住戸敷地内に畑を設ける。砂地を活かした野菜を育てる。

#### c. 環境への応答と Passive System の導入

##### ①風

海から吹く強い西風を集住体全体でいなす。旧街道集落の納屋を参考にする。

##### ②高潮

高潮浸水想定区域図 3) によると、高潮浸水シミュレーション想定最大規模は観音寺港で 5.8 (T.P.+m) とある。集住体設計敷地の標高は 4m であり、浸水深想定 1.8m とし、床高を上げて設計する。

##### ③Passive System

南庭を設け、冬季は日射取得・蓄熱を行い、暖気を上階へ導く。夏季は軒によって日射遮蔽をする。夏季の夜間、陸風により東向きの風となり、これを積極的に取り入れ、夜間通風・蓄冷を行う。

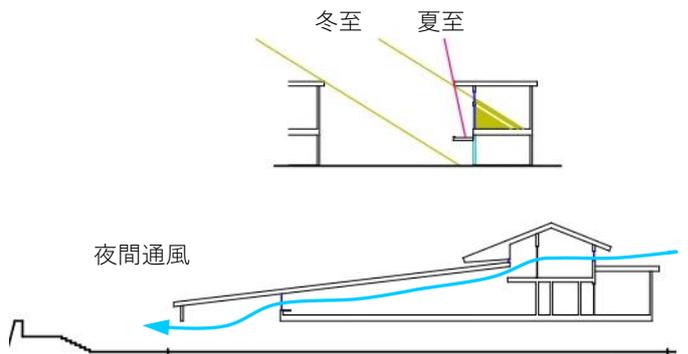


図 9 Passive System の導入

#### d. 世代サイクルへの対応

根を下ろして棲む際、家族構成や暮らし方は変化していく。

よって、本設計では増築や部屋の用途変更をできるようにあらかじめ想定し計画する。

#### IV 有明浜への導入路周辺の整備計画

現況の家屋や道路はそのままに、隣接する畑地の縁に植栽計画を行う。砂地・潮風に耐える植物を選定する。

集住体設計敷地であるキャンプ場には、松の苗木が植えられている。この松の苗木を畑地の縁に植樹する。有明浜南部には松林があり、同じ砂地である畑地の環境でも十分育つと考えられる。

なお、植樹や水やり等の管理は新旧地元民が協力して行うこととする。



図10 植栽計画スケッチ

#### V 計画の統合と検証

上記の手順でできた案を統合・設計し、指針に沿っているか検証する。

#### 6. まとめ

朝起きて潮の満ち引きを確認し、休日である今日の予定を立てる。午前家族そろってマテ貝掘りに行き、午後は菜園で野菜を収穫する。居間で一休みした後、西日が長くのびるピロティを見て、外の堤防へと出る。お隣さんや農家さんとともに、太陽が燦灘へと沈むのを見届け、家に入る。夕食には今日採れたマテ貝と野菜を使った料理が並び、快適な寝室で一日を終える。

毎日見える風景も天気や時間、季節によって変化する。いつかは新地元民ではなく、有明浜を見守るただの地元民と成る。

有明浜を「映え」から守り、有明浜を感じながら快適に棲む、有明浜集住体を提案できたのではないだろうか。

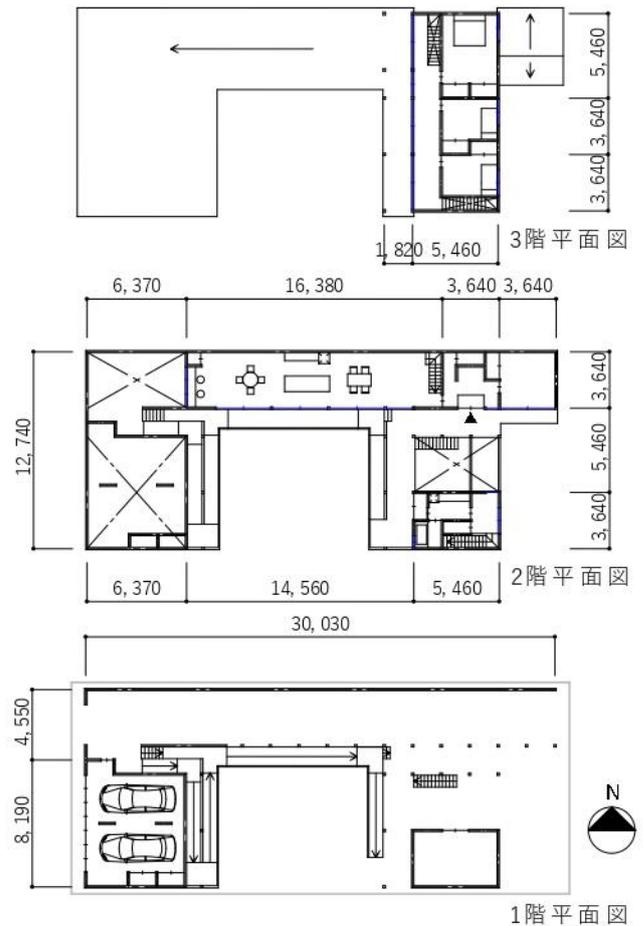


図11 各階平面図

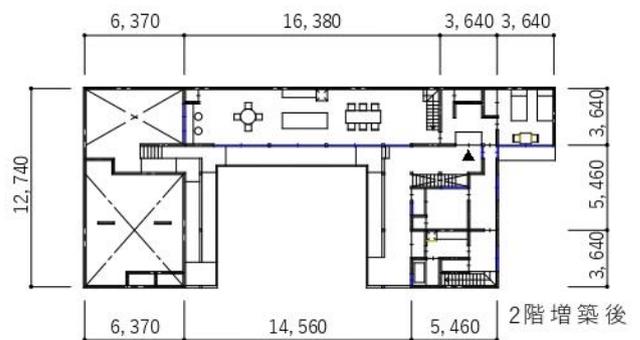


図12 世代サイクルへの対応

#### 参考文献

- 1) 三豊市観光交流局：父母ヶ浜  
<https://www.mitoyo-kanko.com/chichibugahama/>  
(accessed 2023.02.09)
- 2) 国土地理院：地理院地図/GIS Maps  
<https://maps.gsi.go.jp/>, (accessed 2023.02.09)
- 3) 香川県：高潮浸水想定区域図  
[https://www.pref.kagawa.lg.jp/kasensabo/kasen/takasiosinso\\_u.html](https://www.pref.kagawa.lg.jp/kasensabo/kasen/takasiosinso_u.html), (accessed 2023.02.09)